

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201499		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	兵庫県神戸市西区前開南町2-13-6		
自己評価作成日	令和3年8月18日	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然が多く、季節を感じる事の出来る立地条件のため近くの公園やグリーンでの食事を定期的に行っている。 ・春には近くの田んぼに土筆を取りに行き佃煮を作り季節を感じて頂いている。 ・手作りの食事で、利用者様と一緒に調理や片付けを行っている。 ・ご家族様とは普段から連絡をとり入居者様が健康で安心して生活できる場となるよう信頼関係を築いている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqosyoCd=2875201499-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる		
所在地	堺市堺区三宝町二丁131番地2		
訪問調査日	令和3年9月7日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静で自然の多い環境にあり、近隣への散歩や散策で、利用者に季節を感じてもらえる支援の提供にも繋がっています。利用者も自然に触れることによって、時節を認識することができ、四季の移り変わりや息吹を感じる事ができています。近隣との環境も良好で、施設前を通る子どもたちとの交流も行われており、地域に溶け込んだ施設として根付いています。利用者主体の支援が心がけられており、個々の利用者の意向を踏まえた支援の提供に努められています。利用者の状態変化については、家族との密な連絡を大切にされており、利用者と家族の意向を踏まえた支援の提供が心がけられています。コロナ禍の制限下において、対外的な行事や支援が困難であるため、食べて楽しむことを中心に施設内行事やイベントの拡充に努められています。外に出られなくても施設内で少しでも利用者が楽しめる生活環境に提供が意識されています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は基本姿勢として毎日読上げると共に心に刻み、毎日の実践につなげ、理念の意味の理解、実行できているかを定期的に再確認している。	毎日の申し送り前に基本姿勢の確認が行われており、日々の支援の中でも理念に沿った支援の提供が行われているか意識されています。スタッフ間での声かけで、理念に沿った支援の提供に留意されており、気付きの中からも理念に逸脱しない支援の提供に努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今までは近隣の行事には出来るだけ参加し、自施設の行事のお知らせをしていたが今年度は新型コロナウイルスの為交流できず。散歩時に出会った方には挨拶をするように心掛けている。	地域の方々にも施設行事を開放し、参画がありましたが、コロナ禍の制限下において現在は困難な状況です。地域の活動やプロジェクトにも参画されており、現在も可能な範囲の参加が行われ、地域交流が図られています。近隣散歩時にも挨拶や声かけが行われ、地域と顔なじみの関係性構築に努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までは地域の方に気軽に見学と対応を行い認知症の方の理解をお話していたが、昨年度と同様今年度も新型コロナウイルスの関係で見学は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催しておらずスタッフとサービス向上について話し合っている。	コロナ禍の制限下において、運営推進会議メンバーには、資料配付が行われ、施設状況の共有が図られています。市の通知範囲に留まらず、施設独自として書面による意見聴取等、できる事の拡充が行われると、さらなる支援の質の向上に繋がるかと思われます。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>区の福祉課や保健課の方とは連絡をとったり入居者に関わることについての相談や報告など連携をとっている。</p>	<p>地域のあるしんすこやかセンターとの協働で、地域啓発活動に参画されたり、近隣小地域の連絡会協働が推進されるなど、地域との関係づくり、啓発活動が、共に行われ、地域課題や地域ニーズの発掘、把握に繋がられるよう努められています。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>年間教育に取り入れ、研修に参加し理解を深めるとともに身体拘束廃止委員会ではスピーチロックの無いよう話し合い取り組んでいる。</p>	<p>委員会が定期的開催され、委員会の内容は、施設内で共有されています。年2回行われる職員研修では、職員自身も振り返りや再認識が出来る内容で運用されており、普段の支援を振り返る機会にも繋がっています。</p>	
7	(6)	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>上記と同様に行っている。日々の言葉かけや介護についての意識を高めるように指導している。</p>	<p>利用者の権利制限が虐待に繋がるという認識の基、利用者の尊厳を損なわず、普段の何気ない言動から虐待に繋がっていくという意識で支援の提供に努められています。研修の際には、必ず職員の研修報告書が提出されており、振り返りと再認識の意識付けに繋がっています。</p>	
8	(7)	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に取り入れている高齢や遠方の家族様に対し成年後見制度について話し活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者家族から権利擁護に関する相談があった場合には、利用者の現状を含めた選択肢を提供するなど、適切な情報状況に努められています。職員研修でも権利擁護のあり方について、話し合いが持たれています。</p>	
9	(8)	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書、重要事項説明にそって説明し、疑問にもその都度答えている。入院された場合には再度解約について説明している。</p>	<p>契約時には、解約やお金に関する事など、トラブルに繋がりにくい部分を中心に丁寧な説明が心がけられています。</p>	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限がある中で電話対応を行い意見や要望をお聞きし運営に反映させている。	家族との連絡時等に、意向や意見をくみ上げる意識を持った支援の提供に努められています。コロナ禍の制限下において、可能な面談、面会方法など、家族等の意見意向を踏まえた対応に努められています。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案等があれば毎月の代表者会議で報告し組織全体で把握するよう努めている	各ユニットで職員からリーダーあるいは管理者に意見があげやすい環境作りに努められています。リーダーや管理者に上がった意見や提案については、必要に応じ代表者会議にも報告され、法人全体としての課題共有、情報共有が行われています。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には定期的に報告し職員が向上心を持って働ける環境整備と能力や仕事への意欲の評価と処遇への反映に努めている。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の受講希望があれば参加できるよう勤務調整を行っている。ケアの質について出来ていない、力量不足が見られたら、その場で指導を行い知識、技術を身につけるようにしている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会に参加し情報交換することで交流する機会を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人、家族様と面談し馴染のある物、好きなもの等、詳しくお聞きし安心できる環境を整えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望等をお聞きし、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様にお聞きし必要なニーズを見極めご本人様の能力に合わせた支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に過ごしご本人様の出来る事、したい事は介助、見守りを行いながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りと近況報告、面会や電話等でコミュニケーションをとり何かあればすぐに連絡をしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や外出が今年度は出来ず、友人からの電話で対応したり手紙を送ったり関係が途切れないよう支援している。	コロナ禍の制限下において、直接の面会や面談、外出が困難であり、電話や手紙による交流拡充での関係性維持に努められています。	

自己 評価	項目	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が話し合える環境を作り、作業を通して仲良くなって頂けるよう工夫をしている。また利用者様の性格などを考慮し座席を決めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族様からその後の経過を聞いたり必要であれば助言するなど支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に添える様、コミュニケーションをとりながら把握に努めている。意思疎通の難しい方には表情等によりくみ取るようにしている。	利用者とのコミュニケーションの中、意向や希望の把握に努められ、可能な範囲で支援に反映されています。意思疎通が困難な利用者には、表情や動きから、利用者本人の意向をくみ上げ、適切な支援の提供が出来るよう心がけられています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様、家族様より、どのように暮らしてこられたかをお聞きし把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りや観察で、異変を見逃さないよう努め、出来ることはして頂き、見守りながら意欲を引き出している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや定期的にサービス担当者会議を行い、その他気付いたことがあればその都度話し合い介護計画を作成している。	モニタリングが毎月実施され、3ヶ月に一回サービス担当者会議によって、複数職員関与の下で計画の策定に繋がられています。状態変化があれば、都度話し合いが持たれ、必用に応じた計画の変更が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、申し送り時に職員間で情報を共有しよりよいケアに努めている。変化や要望に応じて、個々に見直し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・家族様のその時々ニーズに応じ、可能な限り対応できるよう実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や地域の清掃、伊川谷花壇の水やりを行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の意向を聞き主治医を決められたり、家族様の協力を得ながら外部受診を行っている。必要時は家族様と相談し専門医院の受診が出来るよう支援している。	利用者家族の意向を尊重したかかりつけ医の決定が行われています。提携医療機関から、毎月2回の往診があり、形成外科医による往診も行われています。利用者毎に必要な専門医については、外部受診が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制を整えており、いつでも連絡が取れる。日常の健康面は職場の看護職に相談、報告しており必要時は訪問看護を利用できるよう支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に必要な情報を提供しスムーズに治療が出来るよう病棟NS、SWと連携をとっている。入院などが無い時も定期的にSWとの連絡を行っている。	入院時には、必要な情報提供が速やかに行われています。入院中は、医療機関との情報共有が行われ、退院に備えた情報共有に努められています。退院前には、情報提供を受けると共に、電話等で直接に情報収集が行われ、退院後の支援剣客の策定に繋がられています。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し必要に応じて本人様、家族様、往診医と話し合い本人様、家族様の意向を聞き家族様や関係者の方と一緒にチームで支援に取り組んでいる。	重度化終末期に関する指針が示され、同意を得られています。看取り対応も行われており、終末期には、利用者や家族の意向も踏まえた、話し合いで、終末期支援の計画や方針が策定されています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルに沿って定期的に研修を行い対応できるよう努めている。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間を想定し、年2回の避難訓練と水害を想定した避難訓練を行っている。エレベーターが使えない場合や外の避難が出来ない場合等も想定し行っている。地域の方へ応援要請できる体勢も築いている。	火災対応の避難訓練と水防法指定施設としての訓練が行われています。地震に対するマニュアルがあります。備蓄品は、水、食料、消耗品、カセットコンロ等備品が準備されており、災害発生時は同法人内施設全体で、速やかに必要な施設へ共有融通する体制となっています。		

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のもと、一人一人の自尊心を大切にし、個々のプライバシーを保持するよう言葉遣いや言葉かけには注意を払い対応するよう心掛けている。	利用者の尊厳を尊重し、言葉がけや動作によって、尊厳を尊重することないよう、心がけた支援の提供に努められています。業務に関する会話の中では、まわりの利用者の耳に入っても、対象利用者個人を特定されることがないように、表現に配慮されています。利用者のプライバシー配慮に関する声かけは、周辺の状況により、声かけの仕方や表現を使い分け、また、利用者が羞恥心を持ちやすいケースでは、利用者の意向を確認した上で、意向に沿った配慮が行われています。	利用者の尊厳保持のため、職員が支援に留まらず接遇として利用者と接する事が高められれば、さらなる支援の質の向上に繋がるかと思われます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を聞き一緒に考え、常に自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく本人様のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを知り、更衣の時には職員がアドバイスをし、おしゃれを楽しんで頂き、訪問理美容では、好みの髪形や毛染めをして頂くなど支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み、量、形状等個別に把握し工夫している。行事では餃子やたこ焼きなど作る楽しみ食べる喜びを感じて頂けるよう工夫している。	食事準備片付けには、可能な利用者が積極的に参加されています。食イベントで、利用者参加型のものが積極的に取り入れられており、利用者の役割意識や自己存在感の肯定に繋がる取組が行われています。利用者の嚥下咀嚼機能に応じた形態での提供が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分・食事摂取量を把握し毎日の体調に気をつけて水分量や食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを利用者様に応じて支援している。週1回の訪問歯科による口腔ケア、指導があり本人様に合った支援をしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導や声かけを行っている。	排泄自立の維持に配慮され、利用者自身で行えるうちは、必要性のある最小限の支援にとどめられています。排泄支援が必要な利用者には、適切なタイミングと声かけを行う事に留意し、トイレでの排泄を維持できるよう配慮されています。利用者が羞恥心を抱かないよう、声かけや誘導時には利用者の意向を尊重した配慮に努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた水分量の調整や、運動を用いて予防に取り組んでいる。必要に応じて主治医に報告、相談を行っている		

自己	者	第	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の体調に合わせて週2回入浴して頂くようになっている。ご本人様の希望で午前中の中の入浴も取り入れている。	入浴自立の維持に配慮され、安全性の配慮からの関与と、一部介助にとどめる支援が行われています。入浴介助が必要な利用者には、利用者には負担がかからないよう配慮した支援の提供に努められています。利用者の羞恥心に配慮し、入浴自立されている利用者には、浴室外部からの様子観察や声がけにとどめるなど、最低限の関与にとどめられています。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを大切に、居室で過ごされる際は定期的に訪室をし安否確認をしている、体調に合わせて声かけをして居室で休めるよう室温、テレビ、電気などの環境整備に配慮している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は職員がすぐに見れる場所に保管し、薬の変更があった時は、様子を観察し主治医に報告している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きな事、得意な事、出来る事をして頂けるよう支援している。外気浴や散歩、レクリエーションなどで気分転換できるよう支援している		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのコンビニに買い物に行ったり、利用者様にコースを決めて頂いて散歩を行っている。	コロナ禍の制限下において、積極的な外出や遠くへの外出は困難ですが、近隣コンビニへの買い物や、施設周辺散歩等、感染症対策が可能な範囲での、利用者意向に沿った外出支援に努められています。	

自己評価 実践状況	項目	外部評価	
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される品を購入したり、本人様が自動販売機でジュースを選んで買えるよう支援している。</p>	
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば家族様やご友人に電話して頂けるよう支援しているまた家族様や友人からの電話の取り次ぎも行っている。</p>	
52 (23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>換気や室温調整を行い快適に過ごせる配慮と季節に合った壁画を一緒に作り居心地の良い雰囲気作りを工夫している。</p>	<p>壁面装飾は、季節に応じたものを心がけ、利用者が季節感を感じるきっかけにも繋がられています。利用者の作成した作品等も飾られています。利用者の嗜好に沿ったBGMが流され、くつろげる空間作りに努められています。温度湿度管理を行うと共に、換気にも配慮されています。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの配置に工夫し一人で過ごしたり気の合う方同士でテレビを観られたり、談話をされたりできるよう工夫している。</p>	
54 (24)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前にご本人様、ご家族様への説明で、使い慣れた物や思い出の物を持って来て頂き配置することで、本人様が安心してくつろげる空間を作っている。</p>	<p>利用者個々がテレビや音楽など、それぞれの過ごし方で生活されています。写真や備品など、利用者が思いのあるもの、大切にされているものが、持ち込まれています。居室内のレイアウトは、利用者の思い思いで使いやすい工夫が行われています。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個人の能力を理解し、し過ぎない支援に取り組んでいる</p>	